

オリンピック・パラリンピック ～東京2020大会に向けて～

東京1964大会では、東海道新幹線や首都高速道路など、インフラの整備が大きく進み、日本の経済成長を支えてきました。東京2020大会は、東京が成熟社会の都市の在り方を世界に示す場になります。新規施設が将来にわたって活用されるのはもちろんのこと、都民・国民が参加し、つながりが生まれ、それらがレガシーとして継承されていきます。

選手村

大会後には、多様な人々が交流し、快適に豊かな都市生活を営むことができる、誰もが憧れ住んでみたいと思えるまちになります。



新規恒久施設

大会後も、競技スポーツの拠点、スポーツ利用・観戦、青少年教育の場など、有効活用される施設となります。



19 オリンピックアクアティクスセンター*



8 有明アリーナ*



16 海の森水上競技場*

*左図は全て2015年(平成27年)10月時点の大会時の施設イメージ

競技会場等配置地図*



実施競技等

【オリンピック】 ①開会式/閉会式、陸上競技、サッカー②卓球③ハンドボール④柔道⑤自転車競技(ロード・レース(スタート/ゴール))⑥ウエイトリフティング⑦ボクシング⑧バレーボール(インドア)⑨体操⑩自転車競技(BMX)⑪テニス⑫トライアスロン、水泳(マラソン10km)⑬バレーボール(ビーチバレーボール)⑭ホッケー⑮馬術(総合馬術(クロスカントリー))⑯ボート、カヌー(スプリント)⑰カヌー(スラローム)⑱アーチェリー⑲水泳(競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング)⑳水泳(水球)㉑馬術(馬場馬術、障害馬術、総合馬術)㉒近代

五種(フェンシング)、バドミントン㉓ラグビー、近代五種(水泳、馬術、ランニング、射撃)、サッカー㉔さいたまスーパーアリーナ:バスケットボール㉕射撃㉖霞ヶ関カントリー倶楽部:ゴルフ㉗幕張メッセ:レスリング、フェンシング、テコンドー㉘江の島ヨットハーバー:セーリング㉙伊豆ペロドローム:自転車競技(トラック・レース)㉚伊豆マウンテンバイクコース:自転車競技(マウンテンバイク)㉛札幌ドーム:サッカー㉜宮城スタジアム:サッカー㉝埼玉スタジアム2002:サッカー㉞横浜国際総合競技場:サッカー㉟選手村㊱IBC/MPC

【パラリンピック】 ①開会式/閉会式、陸上競技②卓球③バドミントン、ウィルチェアーラグビー④柔道⑤車椅子バスケットボール⑥ポッチャ⑦車いすテニス⑧トライアスロン⑨カヌー、ボート⑩アーチェリー⑪水泳⑫馬術⑬車椅子バスケットボール⑭射撃⑮幕張メッセ:ゴールボール、テコンドー、シッティングバレーボール、車いすフェンシング⑯選手村⑰IBC/MPC

*オリンピックのサッカーについては会場の追加を検討中です。
*パラリンピックのパワーリフティング、自転車競技(ロード・レース、トラック・レース)、5人制サッカーの会場については検討中です。

東京1964大会のレガシー

東京1964大会では、東京が近代都市になるためのインフラ整備を進めました。この時に造られた国立代々木競技場や日本武道館などは、東京2020大会の会場としても使用されます。

- A 東海道新幹線(1964年10月開通)
- B 首都高速道路(1962年～64年 都心環状線・1号線・4号線一部開通)
- C 青山通り
- D 国立代々木競技場
- E 日本武道館
- F 駒沢オリンピック公園



31 札幌ドーム



32 宮城スタジアム



24 さいたまスーパーアリーナ



27 幕張メッセ



28 江の島ヨットハーバー



29 伊豆ペロドローム